

PR

ウェールズと日本―― コラボレーションの実績が 持続可能な未来を拓く

ウェールズは2025年を「Year of Wales and Japan」としており、両国の文化やビジネス、スポーツで一層のつながりが注目される。ウェールズには50年前からパナソニック、ソニー、丸紅、トヨタなど70社以上の日本企業が進出し、実績を上げてきた。背景にあるのが、イノベーションを推進する地方分権型の環境だ。最先端の半導体とサイバーセキュリティ分野への投資、大胆な環境目標掲げた再生エネプロジェクトなど、ウェールズは協働、イノベーション、市場進出を求める日本企業と研究機関に門戸を開いている。

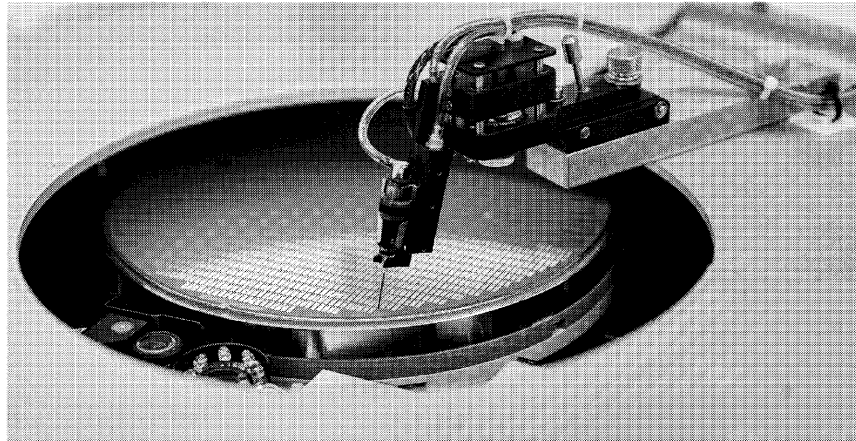
1000億が規模の

世界市場を狙う化合物半導体分野では、ウェールズの豊富な人材と官民支援で輸出と経済成長をけん引する。炭化ケイ素(SiC)半導体技術も加速している。英国政府が出資する化合物半導体クラスター「Cseonnected」は第5世代通信(5G)、電気自動車、パワーエレクトロニクス、ヘルスケア技術の中核を担う。「CSA Catalyst」はフォトニクス、センシング、パワーエレクトロニクスの迅速な開発に取り組む。米Cadence Design Systems, Incは半導体設計センターを開設する予定で、100人以上の高度人材の雇用を創出し、産業に直結する人材パイプラインが

形成される。充実したサプライチェーン(供給網)には、ウエハー製造のIQE、チップ製造のVishayのほか、パッケージング、通信向け材料、製造装置などのメーカーがそろっている。ウェールズは世界的に評価される先進地域として認知され、産学官が連携するサイバーセキュリティのエコシステムも形成されている。GCHQや国防省への近接性、支援政策、学術的知見が強い。進出企業は100社を超え、カーディフ大学、サウスウェールズ大学、スウォンジー大学ではAI(人工知能)、暗号化技術、行動分析の研究が盛んである。

平等な国づくりに取り組んでいる。

2025年大阪・関西万博の英国パビリオンでは、6月24日(火)にウェールズのデジタル・ヘルス分野の取り組みを紹介する。創傷治癒、幹細胞、精密医療、神経科学で評価が高く、NHSと産学連携による研究体制のもと、革新的なヘルスケア技術の開発が進んでいる。



環境分野では、日本企業によるクリーンエネルギーのサプライチェーンへの投資が増加。ジャパンマリンユナイテッドとAMRC Cymruは浮体式洋上風力発電で提携し、フリーポートの税制優遇と港湾整備で発電能力を拡大する。水素や産業の脱炭素、インフラ整備も進行中だ。

北部のHollyhead Hydrogen HubやHyNet、南部の産業クラスターでは、水素と脱炭素事業を推進している。また、ウェールズの陸路による貨物輸送の脱炭素化では、丸紅とPortiumが共同でH

製造、データシステム、産業のデジタル化における日英の連携は加速しており、サステナビリティ、イノベーション、包括的成長という共有の価値観のもと、関係はさらなる深化を迎えている。

12月にウェールズで国際投資サミットを開催する予定で、新たな連携を築く絶好の機会となる。ウェールズは、あらゆる分野で日本からの投資と協働を歓迎している。詳細はホームページ(tradeandinvest.wales/ja)を



ウェールズ政府は開発による環境と未来の世代に悪影響を防ぐことにも注力している。世界初の「未来世代のためのウェルビーイング法」により、公的機関が連携し長期的な視点で豊かで強じん、

ウェールズ政府は開発による環境と未来の世代に悪影響を防ぐことにも注力している。世界初の「未来世代のためのウェルビーイング法」により、公的機関が連携し長期的な視点で豊かで強じん、

ウェールズ政府は開発による環境と未来の世代に悪影響を防ぐことにも注力している。世界初の「未来世代のためのウェルビーイング法」により、公的機関が連携し長期的な視点で豊かで強じん、

ウェールズ
持続可能なパートナー

ウェールズは グリーン革命を牽引し 先導しています

ウェールズがあなたのビジネスにもたらす可能性を探る
tradeandinvest.wales/ja

